



# ささえあい



地域のみなさんの活動や支え合い

素敵な「つながり」情報を発信します！



以前では普通に行われていた、生活にまつわるちょっとしたお手伝いが現在では改めて見直されてきています。「いつも行く銭湯での交流が見守りになっているよ」、「歩行が不自由な〇〇さんが、凍った路面で転ばないようにご近所で協力して砂まきをしているんだ」などの素敵なエピソードがありましたら、生活支援推進員にもお声掛けくださいね！

お店の前で



あれ？仲間と似ているような！？



↑ TEA ROOMエンジェル  
(山鼻地区)  
オーナー 久我和子さん

常連さんとおしゃべり



今回は、山鼻地区にある水にこだわった美味しいコーヒーの飲める喫茶店です。生活支援員が飛び込み訪問したところ、「いつの間にか地域のコミュニティの場になっている」というお話しをオーナーからお聞きし、日を改めて詳しく伺わせていただきました。



そのお店は『TEA ROOMエンジェル』という喫茶店で、オーナーは『久我和子』さんです。おいしいコーヒーの他にも、栄養満点のランチが提供されるお店で、地域の方々が来店しています。お邪魔した日のお昼も、常連のみなさんがランチを召し上がっていました。

雑誌や本も充実



# お客様同士をつなぐオーナーは「エンジェル」☆彡



昭和59年に開店し歴史を刻んできたお店も、コロナ禍からちょっと様子が変わってきたといえます。どのように変わってきたのかも含め、オーナーにお聞きしました。

**TEA ROOMエンジェルを開店するにあたってどのような想いがありましたか？ また、当時の様子はいかがでしたか？**

私が高校生の頃、喫茶店に興味をもち通っていました。当時から、喫茶店で繰り広げられる人と人とのふれあいが好きだったことや、ファッション雑誌などが置かれた空間で、それらを読みながらコーヒーを飲んでひと時を過ごすという雰囲気にも憧れていました。大人を感じることができる喫茶店に魅了されていたのかもしれませんが。そして、いつか自分も喫茶店を開きたいという夢ができました。また、店名の『エンジェル』は私自身のイメージという周りからの声をいただき、それなら(照)と決めました。  
開店当時は産まれたばかりの子どもがいましたが、高校時代からの夢を叶えるため無我夢中でした。ちなみに、今年が開店して37年になります。

**お店のこだわりポイントはどのようなところですか？**

美味しいコーヒーを提供するため、水にはこだわりがあります。井戸を掘り、その井戸水を沸かしていています。また、できるだけ心を癒せる場所にしたいと思っています。ゆっくり過ごしていただけるよう、雑誌や新聞を用意しています。食事も、栄養バランスも考慮したランチに特に力を入れています。

**面白エピソードや、当時と今とで変わったと思うことはありますか？**

開店当時はお店の周りにたくさんのオフィスがありました。また、携帯電話が普及されていなかったため、お店の固定電話にかかってきた電話をお客さまに取り次ぐといったこともありました。お客さまもサラリーマンの方が80%でしたが、去年のコロナ禍からご高齢の方が増え、現在は町内会や民生委員の方、高齢のお友達同士や定期的にお食事に来る方など、**サロンのようにご利用いただいています。いつの間にかお客さま全員で話していることもよくある風景**です。ただ、今は密になるのが怖いので、充分注意して営業しています。

**今後やってみたいと考えていることがあれば教えてください。**

余裕ができたなら、週替わりで**ご近所の方が集まれるイベントを開催してみたい**と考えています。例えば折り紙の日、編み物の日、お話の日など、曜日を決めてできたらいいと思います。コロナ感染が収束に向かうことを願っています。

**【オーナーからのねがい】**

健康で一日でも長く通っていただきたいので、近隣の方はぜひ車でなく、歩いてくることから健康づくりを始めていただきたいです。

やさしいオーナーとの会話だけでなく、お客さま同士の気にかけても、情報交換もありの素敵な場所ですね☆彡

## ワーカーズコープ オンラインフォーラム開催報告

令和3年1月29日、北海道医療大学看護福祉学部准教授 長谷川聡先生の全面的なご協力をいただきフォーラムを開催しました。教育文化会館をホストメイン会場として、サテライト会場、個人など16か所に主催者側6名を加えた合計44名の方に参加していただきました。

開催のきっかけは、コロナ禍で人と人の交流が抑制される状況のもと、地域の方々の「友人と会ってお話したい」「みんなと一緒に活動したい」という声をよく聞いたことです。そこで、密を避けながら、なにか新たな形で人と人の交流体験を共有できないかとワーカーズ内で協議しました。北海道医療大学の長谷川先生のお知恵も拝借し、興味や関心の持てるテーマを設定し、お互い意見を述べ合う場を持つことで、双方向でつながる楽しさや交流の大切さを改めて感じてほしいという思いも込め、各会場をオンラインで結ぶ形式のフォーラムを企画しました。

テーマは、「新型コロナウイルス感染症対策」とし、さらに「医療と介護の感染対策をプロから学ぶ 家庭でできるコロナ対策再点検 あなたのうちはだいじょうぶ？」というサブテーマを銘打ちました。

当日は、介護老人保健施設サンビオーズ新琴似看護師長と北海道中央労災病院CNS看護師の両名をお招きして、パネルディスカッションを基調として実施しました。その後、各会場を結んだ質疑応答では「家内でも感染防止のため息子との接触を避けているので会話がなない」、「銭湯だからこその感染対策はどのようなものがあるか」などの意見交換が活発に行われました。

終了後、参加者を対象に実施したアンケートでは、9割の回答がコロナ禍で交流は減ったと感じていました。また、インターネットを使ったコミュニケーションの必要性について、9割の回答が必要だと感じており、難しいという回答は少数にとどまるなど、参加者の皆さんの考えもうかがえました。

今回サテライトにお集まりいただいた絆を大切に、今後は小規模ながらもオンラインでつながる機会を設けていきたいと思ひます。また、この経験を地域住民の交流機会拡大の有効な方法の一つとしてアドバイス、提案につなげていければと感じています。



【メイン会場 教育文化会館】



【サテライト会場 さつき湯】



【サテライト会場 発寒地区会館】

